



2017 年度 新年度ご挨拶

院長 柿木 滋夫



新年あけましておめでとうございます。

昨年は 8 月には台風が続けて北海道に上陸し、道東に大きな被害をもたらし、11 月には大雪に見舞われるなど異常気象が続きました。今年はどうなるのかなと心配しつつも穏やかな新年を迎えられたことと思います。今年「酉年」です、酉の付く年は商売繁盛につながると言われています。習い事で結果が得られたり、学問や商売などで成果が得られるかも知れません。当院職員一人一人も新たな気持ちを持ち、患者さん一人一人に寄り添いながら成果を得られるように頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

当院の昨年を振り返ると 6 月から地域包括ケア病棟を開設し、患者さんの診療を途切れることなく、元気に退院できるまで寄り添っていける体制を整えました。高齢化が進む中、フレイルを進行させないようにリハビリを行い、自宅退院へ向けて環境を整えることを目標にしています。今後は入院前から入院中、退院に向けて、退院後を見据えた途切れることのない安心できるサービスの提供を目指しております。

最後になりますが、今年が皆様にとって良い年となることを願って新年のあいさつといたします。

2017年度 新年度ご挨拶

事務部長 永井克昭



あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく
お願いいたします。また、日頃より皆様からの小樽協会病
院へのご理解とご協力を頂き、心よりお礼申し上げます。

昨年は東日本大震災の傷も癒えていないところに、また
しても大きな地震が熊本県、そして鳥取県で発生し多くの
方が被災されました。また、北海道においてもかつて経験
したことのない台風被害により、道東の十勝では、狩勝峠、
日勝峠で道路が寸断され、鉄道も線路が川に流され移動手
段が断たれ、住民生活に甚大な被害となったことは記憶に残るところでありま
す。

さて2025年にむけて高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自立した生活を
送れるように、医療、介護、介護予防、住まい等の日常生活の支援が包括的に
提供される体制「地域包括ケアシステム」の構築がなされます。これは医療・
介護・福祉等の資源を効率的に活用することが主眼となります。私ども小樽協
会病院はこのシステムの一翼を担うよう地域のため、そして地域住民から必要
とされる病院を目指し職員一丸となって取り組んで参ります。
本年もご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

看護部長 川畑いづみ



新年明けましておめでとうございます。

6月に着任以降、問題を解決することばかりに追われ、
地に足を付けた事業を行うことができなかつたことを反省
しつつお正月休みを過ごしました。

今年度は、これからの3年を見据えた中期目標のもと、
小樽協会病院が舵をとっていく船出の年です。これからも
高度急性期から在宅復帰支援に至るまでチーム医療を推進
し、包括的医療を提供できるよう努力しつづける所存です。

看護部としても、「改革」と「定着」をキーワードに、過去にとらわれず、看
護職としてのミッションにこだわりを持って、事業展開していこうと思います。

本年も、ご指導いただきますようお願い申し上げます。

皆様にとって良き年でありますことを祈念しております。



2016 年度無料巡回診療報告



ー「朝早くからありがとう」「何ともなくて安心した」



2016 年度の無料巡回診療もたくさんの町民のみなさんに参加して頂きありがとうございます。小樽協会病院では年に 2 回後志地区住民の方の健康維持・管理のために無料巡回診療を実施しております。2016 年度の第 1 回目は 10 月 15 日(土)に仁木町銀山生活改善センターにて、第 2 回目は 12 月 3 日(土)に仁木町尾根内地区会館に

て実施しました。第 1 回目は 16 名、第 2 回目は 10 名の方に参加して頂きました。小樽協会病院からは循環器の長井医師、勝山医師を中心に看護部、検査科、臨床工学科、事務部、連携室の職員が参加しました。

診療が始まる前は不安そうな表情をしている方も多くいらっしゃいました。しかし、今年度は長井医師、勝山医師に不安なことや心配事を相談できる時間がゆっくりと取れたため、診療が終わるとみなさんホッと笑顔がこぼれており、満足された様子でした。新しい試みとして今年度は第 2 回目に物忘れチェック検査を導入しております。パソコンに出題される問題に答える簡単な検査です。初めての検査の上に物忘れの状態が分かる検査となると「全問正解できるかしら」と緊張感が溢れる検査となっており、みなさんひやひやしなながら検査を受けておりました。

今年度は町民のみなさんとお話する時間もたくさん取ることができ、お子さんにも参加して頂き、身体測定や体重測定を行いました。「わー！大きくなって！」と素敵な笑顔が見られたり、町民の方からは秘密の抜け道や町民だけが知る情報を教えて頂いたり私たちにとっても有意義な時間となりました。

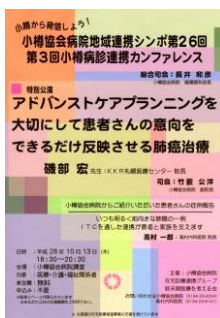
また、毎年度のことながら円滑な実施のために仁木町役場の保健師さんには日程調整や場所の選定、会場設営や町民の皆様への周知や連絡調整、当日の問診などたくさんのご協力を頂き、ありがとうございました。

今年度も好評だった無料巡回診療は来年度も 10 月、12 月に開催予定になっております。来年度もたくさんの方の参加をお待ちしております。



病院地域連携シンポ・病診連携カンファレンス開催報告

小樽協会病院 循環器科部長・地域連携室長 長井 和彦



平成28年10月13日 当院講堂にて『第26回小樽協会病院地域連携シンポ・第3回 病診連携カンファレンス』が合同開催されました。

病診連携カンファレンスは、前回の「つゆくさ」でも紹介させて頂きましたが、道から平成27年度在宅医療提供体制強化事業（在宅医療グループ診療運営事業）の助成を受け、高村内科医院の高村院長を筆頭に本間内科、常見医院、梅ヶ枝内科・眼科クリニック、松島内科の先生ら『チームひまわり』を中心に活動されています。在宅医療未経験の医師にも声をかけ定期的なカンファレンス、研修参加を呼びかけ、在宅医を養成する目的と小樽市・小樽医師会、後方支援病院との協力・連携推進、他職種との勉強会を行い在宅医療の問題点を検討し、これまで以上に連携した地域密着型の在宅医療を提供する目的で行われています。



第1部として高村内科医院の高村先生と当院呼吸器科の間で病診連携が行われた症例に関してご紹介いただきました。『最後まで前向きに末期肺癌の一症例』という演題にて症例発表が行われました。高村先生からは、患者さんの病状の詳細な経過をご報告いただき、さらにICTという緩和ケアチーム内で、リアルタイムに情報共有ができるツールのご紹介もいただきました。当院からは主治医の呼吸器科佐藤医師・慢性疾患専門看護師で



ある高井看護師・坂理学療法士からの退院までのかかわりや本人・家族の思い、身体状況などについて発表・意見交換が行われました。今後も在宅ケアを求める患者さんにおいて必要な病診連携を進めていき、システムとして構築されること期待します。

また、今回は、特別公演として KKR 札幌医療センター院長磯部宏先生を招聘し、「アドバンスケアプランニングを大切にして患者さんの意向をできるだけ反映させる肺癌治療」という演題で講演をして頂きました。専門は呼吸器内科の先生であり、肺癌患者さんに対して、予め今後の人生をどのように生きたいかを事前に考えてもらい、それに基づいた、緩和ケアを含めた治療方針を考えていくというものでした。プランニングシートを作成し、システム化も図っているようでした。今後、小樽地域でも緩和ケアなどに積極的に取り組んでいく必要も考え、大変参考になる講演であったと思います。



今後、ますます地域で生活する患者さんの意見交換も増えてくることと思います。今回はそれぞれの視野の違いや顔を合わせたの連携など多くものを得ることができた会を開催できたことと思います。

次回は3月2日に当院講堂で第27回地域連携シンポジウムを行う予定です。多くの地域医療機関との顔を合わせる良い機会かと思えます。詳細は改めてご案内いたしますので、ぜひともお気軽にご参加のほどよろしくお願い致します。



医療安全推進週間企画

「転倒予防教室」を開催しました

昨年12月16日、医療安全推進週間の企画として「転倒予防教室」を行いました。

企画内容は、当院の作業療法士による講演「転ばないための体の使い方」と、ソーシャルワーカーによる講演「あなたを支える小樽の“なるほど”社会資源」、そして1階ロビーでは市内で福祉用具を扱っている会社にご協力を頂き介護用品などの展示も行いました。

残念ながら広報不足で参加人数は少なかったのですが、今後もこのような企画を続けていくことによって参加者も増えてくると考えております。また患者様やそのご家族のニーズに沿った情報を発信することも地域に根差した医療の提供の一部と思えますので、今後もこのような活動を続けていきます。



小樽協会病院 リハビリテーション科からのお知らせ

当院のリハビリテーション科は、主に循環器科、呼吸器内科・外科、整形外科、小児科、消化器内科に入院されている患者様を対象に、心不全や心筋梗塞、肺炎や肺の手術、喘息、骨折などの外傷、各ガンなどに対してのリハビリテーションを医師の指示のもと行っています。平成28年に入り、理学療法士のみでなく作業療法士や言語聴覚士も加わり、現在は理学療法士8名、作業療法士2名、言語聴覚士1名の計11名で活動しています。3職種が揃い、今まで以上に充実したリハビリテーションを提供していけるよう取り組んでいきます。



理学療法士

身体機能（筋力・体力など）、動作能力（座る・立つ・歩くなど）の回復や維持を図ります。また在宅復帰を円滑に行うことを目標とし、実際の日常生活動作を把握した上で、具体的かつ安全に行える環境設定、退院後の生活を見据えた指導や提案を行っています。



作業療法士

地域包括ケア病棟中心に退院後に行うであろう実際の生活を見据え、着替えやトイレ動作、洗濯物を干す、食器を洗うなど生活に沿った動作の獲得を目指しています。また、認知面の低下を予防し生活リズムを保つ支援や、食事動作場面では、自助具（柄の太いスプーンやらくらく箸など）の選定も行い、患者様にとってよりよい動作方法を提供できるように取り組んでいます。

言語療法士

摂食嚥下に問題のある方に対し、評価・訓練・指導を主に行っております。栄養科・各病棟・訪問歯科の先生方と連携しながら食事形態の調整、口腔ケア、義歯調整といった機能訓練だけに留まらない、患者様の「食」に関わる総合的な支援を行っています。

H28年の6月からは、当院にて地域包括ケア病棟が本格的に開始しました。地域包括ケア病棟では、退院を前にした患者様に対し、より退院後での生活をイメージしたリハビリを提供しています。リハビリ対象患者様は1日合計1時間程度の実施が決められており、充実したリハビリを受ける事が出来ます。また、院内の職種との連携だけでなく、ケアマネージャーなどの他職種と連携しながら、出来る限り患者様やご家族様の希望に沿った状態で退院できるようにスタッフ一同取り組んでいます。

第五回 ふれあい健康教室を開催しました

平成 28 年 11 月 5 日に『第 5 回ふれあい健康教室』を開催いたしました。このような企画の参加人数は天候に左右されやすいと言われていおり、残念ながら当日の小樽は大変寒く、冷たい雨が降る天気でした。しかし、写真にもありますように盛会の内に『第 5 回ふれあい健康教室』を開催することが出来ました。寒く足下が悪い中、ご参加いただきました多くの市民の皆様にはお礼申し上げます。



今回の『ふれあい健康教室』は小樽駅近くの経済センタービルにて開催され、第 1 部は「肺がんを早期発見、治療するために」と題して呼吸器内科から竹藪副院長、呼吸器外科から石川外科医長、画像診断科から渡辺係長が講演を行いました。動画を交えたわかりやすい内容で、熱心にメモを取る方もいて、参加された方々の関心の高さが伺い知れました。



第 2 部は当院職員による無料の骨密度測定と COPD の検査を行い、数十名の方にご参加いただき、2 時間 30 分の『第 5 回ふれあい健康教室』が終了いたしました。



ご参加いただいた方々へのアンケートからは、今回の『ふれあい健康教室』はご好評いただけたことが分かりました。また小樽初の『低線量 CT による肺がん検診』が胸部 X 線写真よりも肺がんを早期に発見できる方法であることも市民の皆様にご覧いただき、知って頂けたと思いましたが、肺がんによる死亡率を下げるためには引き続き今回のような講演会を行うことが大切だと感じました。

小樽協会病院『ふれあい健康教室』では今後も皆様の健康づくりのお役に立てる内容を考えていきます。来年は、最近芸能人で話題となった「乳がん」についての講演会を予定しております。ポスターやホームページなどでご案内いたします。皆様のご参加お待ちしております。

院内クリスマスコンサートが 開催されました



毎年恒例の院内クリスマスコンサート、今年は 12 月 20 日に双葉中学校、双葉高等学校音楽部の皆さんをお迎えして開催されました。合唱部によるロビーいっぱい広がるクリスマスソングで厳かに幕をあけました。続いて吹奏楽部の演奏では、会場に集まった患者様やそのご家族の方々より大きな手拍子が起こり、大変なもりあがりを見せました。短い時間でしたが、患者様や当院スタッフを癒し元気をくれた生徒の皆さん、ありがとうございました。



提携駐車場のご案内

平成 28 年 11 月 1 日（火）より、小樽協会病院駐車場入り口向いにあります『小樽市立病院駐車場』を、当院受診患者様も利用できるようになりました。

【ご利用料金】

外来受診患者様	12 時間まで 100 円：以降 1 時間 100 円
お見舞い者	2 時間まで 100 円：以降 1 時間 100 円
一般の方	30 分につき 300 円

※ご利用の際は必ず「1 階会計窓口・受付窓口」に駐車券を提出し証印を受けて下さい。

20 時 00 分～翌 8 時 30 分は、地下 1 階守衛室にてお願いします。

（証印を受けなければ上記金額の適用を受けられません）

編集後記

平成 29 年も始まり早くも一月が過ぎてしまいました。風邪やインフルエンザが猛威を振るっていますが、体調管理に気をつけ今年一年過ごしていきたいと思っています。本年も宜しく願いいたします(渡辺)

小樽協会病院広報誌“つゆくさ” NO.52

発行：小樽協会病院編集委員会

発行日：平成 29 年 2 月

発行人：柿木 滋夫

編集委員長：渡辺 直輝